

「カイルス巡礼とグゲ遺跡」

～西チベット・古格王国(842年～1630年)への旅路～

都留市文化協会副会長、写真家 藤本紘一

私が初めてチベットに足を踏み入れたのは、2004年10月「シルクロード～チベットの旅」と題してカシュガル～イエチエン～アリ～タルチェン(カイルス巡礼の起点)～チョモランマBC～ラサの旅をしたが、カイルス巡礼は前日の雪で急遽中止となった。第2回目は2009年9月「第三の極地・チベット横断6300キロ」と題して雲南省昆明～ラサ～チョモランマBC～タルチェン～カイルス巡礼～ツァンダ・グゲ遺跡～アリ～改則～サンサン～ラサ～芒康～徳欽～昆明の26日間であった。今回2015年8月は昆明～ラサ～アリ～タルチェン～カイルス巡礼～ツァンダ・グゲ遺跡～アリ～ラサ～昆明へとなり、今回で2度目のカイルス巡礼と遺跡の旅が出来た。これらの辺境の旅の中から自然と仏教文化の写真を中心に紹介する。



○巡礼の出発地「タルチェン」

タルチェンを最初に訪れたのは2004年10月になる。この頃の村は殆ど巡礼者の宿泊地となっていて、観光で訪れる人などなく村は閑散としていた。それから5年後の2009年9月に訪れた時には道路、宿泊所、店は新しく、村に入る広い道路の両側には土産の店が建ち並んでいた。3度目の昨年にはホテルや巡礼者の建物が更に整備され巡礼の村から観光の村へと変わりつつ生活面でも変化が見られる。



○マナサロワール湖

カイルス山の南に海拔 4588m の淡水湖がある。周囲は 100 キロありヒンドゥー教などの巡礼者は 4～5 日かけて湖を巡礼しここで沐浴をして、静けさに包まれた青い聖湖と荒涼たる大地の向こうに見える聖山カイルスにお祈りをする。故マハトマ・ガンジーの遺灰はこの湖にもまかれたという。



マナサロワール湖



マナサロワール湖から見るカイルス

○カイルス山を源流とする大河

アジアの四大大河はカイルス山を源流として動物の口から流れ出ている。

- 1、インダス川：獅子の口から流れる獅泉河(センゲ・カンバブ)
- 2、サトレジ川：象の口から流れる象泉河
- 3、ヤルツァンポ川：馬に口から流れる馬泉河⇒ブラマプトラ川
- 4、カルナリ川：孔雀の口から流れる孔雀河⇒ガンジス川

○カイルス山巡礼

古くからチベットの人々は雪をいただく山々を神々の住むところだと考え崇めてきた。アジア最大の聖地カイルス山標高 6 6 5 6 m はチベット仏教、ボン教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の信者にとって活仏須弥山と考えられ信者は一周 52 キロを五体投地で巡礼する。正式には信者は 13 周を修行としている。



五体投地



○タルボチェ

近年は車の発達で、タルチェンからタルボチェまでバスが出ていて実際にはここから巡礼が始まる。ここには御柱が立てられ円を描くように放射状に五色の祈願旗タルチョが掲げられ、この周りを回り巡礼に出掛ける。チベット歴の 4 月満月の日、仏教徒最大の祭り「サカダワ」が行われ多くの信者であふれ大祭を祝う。



タルポチェのタルチョ



カイラス巡礼にヤクの荷上げ

○ディラ・プク・ゴンパ

13 世紀に建てられたドゥクパ・カギュ派の僧院で 80 年代後半に再建され更に近年石段や僧院の外装と景観が改修され見違えるほどの壮観で素晴らしい。本尊はチュク・リンポチェで回りの大理石は北インド・ヒマーチャルブリデッシュ州のラホール由来のものだ。僧院の手前には宿坊と巡礼者の宿となっていて、普通はここで 1 泊し次の早朝いよいよ最大の難所ドルマ・ラ 5668m に向けて出発する。しばらく歩くとスウェーデンの探検家スウェン・ヘディンが 1907 年インダス川を遡り獅の口からほとぼしる一滴の水を求めて北へと進んだという場所を確認する。



ディラ・プク・ゴンパ



巡礼者の五体投地



カイラス山北面

○最大の難所ドルマ・ラ 5668m

カイラスの歴史の中で河口慧海は 1901 年 9 月 8 日から途中寺院で 3 泊して一周した。、ここは「三途の脱れ坂」といわれ、ドルマ・ラ近くには巡礼で行き倒れた巡礼者の鳥葬場があり衣服や遺品が散乱していて、何とも言えぬ光景を目のあたりにする。ここから更に 3 時間近くかけ「懺悔の坂」という心臓破りの坂を登ると、突然五色の祈願旗・タルチョが目飛び込んでくる。ここが巡礼の最大の難所「ドルマ・ラ」だ、風に旗めく無数のタルチョのなか巡礼者はルンタを天空の神に向けて思いを唱え風に任せ撒き五体投地をして祈願する。



靄中のカイラス



懺悔の坂のエーデルワイス



ドルマ・ラをめざす



聖地ドルマ・ラのタルチョ



聖地ドルマ・ラに立つ



ルンタを撒く

○ズトゥル・プク・ゴンパ

カイラス山の東面にあるミラレバが開いたという冥想石窟があり、このゴンパには彩色豊かな仏像、タンカや壁画があり、ゴンパの下には宿坊や巡礼宿がある。



僧院



僧院内の仏像



巡礼宿と荷上げのヤク

○グゲ王国 (古格王国)

9世紀に西チベットで建国された仏教王国。グゲ王朝の勢力は西チベットから北インド・ラダックやスピティや地方へとまたがる。10世紀にグゲ王国であったイエシェ・ウーは仏教再興に熱心でリンチェン・サンポを当時の仏教先進国であるカシミールへ留学生として派遣し、当時の最先端でありカシミール様式の寺院、建築、壁画などを導入した。グゲ王国は16世紀にラダックの攻撃を受け廃墟となった。西チベット・ツァパランにはトリン僧院、グゲ遺跡、(王宮、僧院)が残っていて、破壊が激しいながらもグゲ様式の仏教壁画を見ることができる。なかでもグゲにはラカン・カルポ (白宮) ラカン・マルポ (紅宮) や王宮が残っている。





ラカン・カルポ

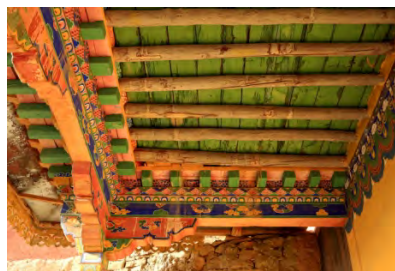
仏像



ラカン・マルポ

壁画

壁画



王宮

王宮の天井

最上部の廃墟

○トリン・ゴンパ（托林寺）

西チベットの翻訳僧リンチェン・サンポが 11 世紀の始めに創建した寺院で、かつては 6 つの寺院があったが文化大革命により廃墟となり、現在残っているのはラカン・マルポ、ラカン・カルポとマンダラ堂で寺院内には高さ 7～8 m もあるトリン寺を象徴する仏塔があり毎日信者がマニ車を回しお祈りをしている。



托林寺

寺院内

カシミール様式の仏塔

○ピアン・トゥンガル石窟群

ピアン石窟：ツアンダより 70 キロ離れたピアン村近くにある石窟群は岩壁に約 7000 の石窟が 3 つの区画に点在している。1991 年に洞窟内で色鮮やかな仏教壁画が発見されて以来チベット仏教や歴史研究が進んでいる。

トンガ石窟：ピアン村から更に奥に 2 キロ進むとトンガ村があり岩壁に掘られた石窟寺院で 50 の石窟が並んでいてそのうち見学可能なのは 3 窟で、規模も保存状

態も良く 1 号窟の内部の天井は中央アジア起源のラテルネンデッケ（三角隅持ち送り形式天井）の建築手法で、2 号窟は同心円的なドーム状天井が見られ四方の角壁面には多種多様のマンダラが赤と青の基調に描かれていて、その他千体仏、菩薩、女尊、飛天など様々なポーズで護法神、獣面人身像が狭い石窟いっぱいに表示されている。これらの壁画のスタイルは北インド・ラダックのアルチ僧院やスピティのタボ僧院と密接な関係が見られ石窟の構造は中央アジアの石窟寺院ともおおくの共通点を見出すことが出来る。

(注) ピアン・トゥンガル石窟群は 1992 年の夏、四川大学の副教授が朝日新聞の取材の時、遊牧民の女性から「近くに大きな遺跡がある」と教えられ女性の案内で遺跡を発見した。トンガ 1 号窟と 2 号窟は発見後中国文物第 1 級（国宝）に指定され敦煌の莫高窟壁画を彷彿とさせる菩薩像や壁画は見事であり NHK のテレビで放映された。



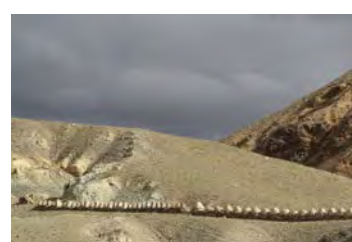
ピアン村の石窟群



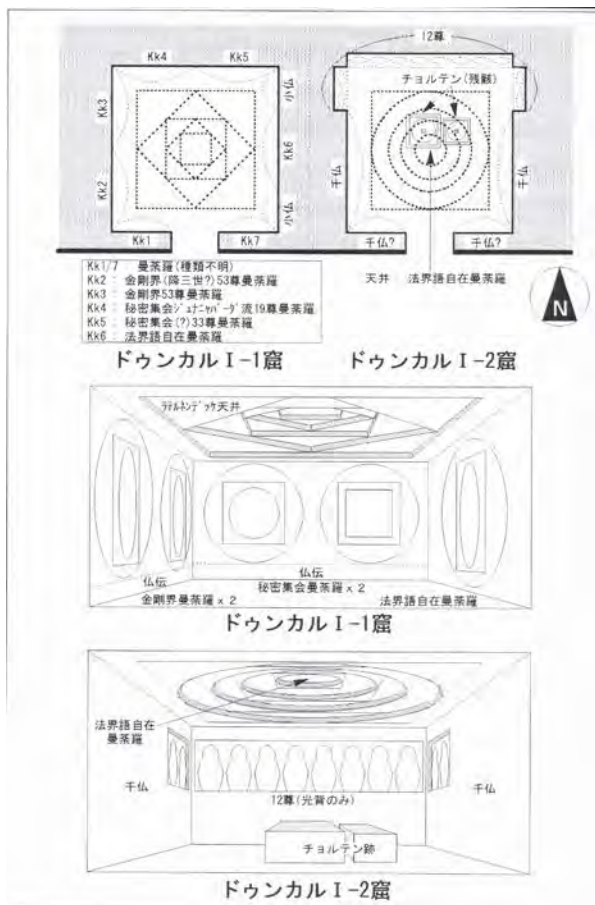
トゥンガル石窟群



石窟入口



トゥンガル村の仏塔



1 - 1 窟



1 - 2 窟



石窟管理人 (右)



絶滅危惧種国
 一級保護動物チルー